

ユネスコ・グローバル教育会合（Global Education Meeting（GEM）） 臨時会合について

1. 会合の背景、趣旨・目的

グローバル教育会合（Global Education Meeting（GEM））は、持続可能な開発目標（SDGs）のゴール4（教育）の進捗状況をハイレベルで共有するための教育大臣級会合であり、ユネスコが開催するもの。2018年12月に第1回が開催され、次回は2021年に開催される予定だったが、コロナ禍の危機的状況を受け、10月22日に臨時会合を開催。

2. 会合概要

【ハイレベル会合】

日時：令和2年10月22日（木）20：00－24：00（日本時間）

開催形式・場所：オンライン

使用言語：英語、フランス語、スペイン語、中国語、アラビア語、ロシア語

テーマ：Reimagine and re-commit to education（教育の再考と新たな対応）

主催者：ユネスコ・英国・ノルウェー・ガーナ

成果物：コロナ禍における教育の危機に対し、各国のコミットメントを強化する2020 GEM宣言を採択。

主な出席者：グテーレス・国連事務総長（ビデオ出席）、アズレー・ユネスコ事務局長、ソールベルグ・ノルウェー首相、アクフォ＝アド・ガーナ大統領（ビデオ出席）、バロネス・サッグ・英国・持続可能な開発担当大臣（以上、主催者として、開会式のみ出席。）

日本政府関係出席者：

- ・丸山 洋司 文部科学審議官（代表）
- ・吉田 和浩 （ユネスコ）SDG-教育2030運営委員会共同議長
広島大学教育開発国際協力研究センター長／教授
（日本ユネスコ国内委員会委員）
- ・田口 康 国際統括官
- ・石田 善顕 国際統括官付国際戦略企画官

3. 主な参加国

英国、ノルウェー、ガーナ、ポルトガル、ベルギー、モロッコ、アンゴラ、ナミビア、ウズベキスタン、イタリア、スペイン、コロンビア、ルワンダ、ケニア、チュニジア、アフガニスタン、バングラデシュ、中国、モルディブ、ミャンマー、フィリピン、日本、エジプト、リビア、モロッコ、シリア、アンドラ、アルメニア、アゼルバイジャン、フランス、ギリシャ、ラトビア、マルタ、モルドバ、ルーマニア、スウェーデン、ウクライナ、ロシア、トルコ、ベナン、カーボベルデ、南アフリカ、アルゼンチン、ボリビア、キューバ、ベネズエラ 外

4. 結果

別紙のとおり。

ユネスコ・グローバル教育会合(GEM)臨時会合の結果

1. 概要

- 10月20日(火)及び22日(木)に、ユネスコ・グローバル教育会合(GEM)臨時会合がテレビ会議形式で開催され、22日ハイレベル会合には丸山文部科学審議官が、20日テクニカル会合には田口国際統括官が出席。
- 会合では、コロナ禍における教育への対応に関連して、①国内及び国際教育財政の保護、②安全な学校再開、③包摂性、衡平性及びジェンダー平等、④教育及び学習の再考、⑤学習のための衡平な接続・技術の活用、について議論。
- 丸山文科審からは、コロナ禍における教育の継続性、学びの保障のためには各国の協働が不可欠であること、また、感染症対策と子供たちの学びを両立することの重要性について言及するとともに、文部科学省が行っている支援策等について紹介し、各国等と知見を共有。
- 引き続き、各国及びすべての関係者が、コロナ禍における教育危機に積極的に対応していくことを確認。

2. 成果文書

- ハイレベル会合において、「2020GEM宣言」がとりまとめられた。
- 教育に対する公的支出を維持・確保することに原則合意するとともに、今後15か月をかけて、①安全な学校再開、②最前線にある教師への支援、③若者や成人への職業上の技能訓練、④対面学習の補完として、デジタルディバイドを減らしICT等を利用した学習を実現すること等が盛り込まれた。